

八重咲きテッポウユリ「咲八姫」の最適な前処理剤の利用技術の確立

○諏訪康子・今給黎征郎
(鹿児島農総セ)

【目的】

鹿児島県育成テッポウユリ「咲八姫」は、八重咲き品種で今後の普及が期待されている。「咲八姫」は、従来の品種のように蕾切りで出荷した場合、蕾が開花しにくく、暗い室内では蕾の開花率が劣ることが分かっている。そこで、前処理剤の処理方法を検討したので報告する。

【材料および方法】

試験は農業開発総合センター花き研究室作業室および人工気象室で、3月出しは3輪切り花、5月出しは5輪切り花を用いて行った。切り花長90cm(脱葉20cm)に調整後、各区5本供試して前処理剤(ユリ開花液10倍液とクリザールBV B6,666倍液の混合液)に1, 3, 5時間、対照区は水道水に5時間浸漬した。その後、3℃の冷蔵庫で4日出荷予措を行った。冷蔵庫から出した後、切り口を5cm切り戻し、水道水を入れたバケツに生け、3月出しは1,3001x、5月出しは2001xでいずれも12時間日長、25℃条件下で開花させた。

【結果および考察】

「咲八姫」の3月及び5月出しの切り花に前処理剤を1時間以上処理した結果、蕾サイズ6cm以上の開花率が向上した(表1, 3月出しデータ略)。

また、対照区より開花期間が長くなり、暗い条件下(2001x)でも第4花の開花率が向上した(表2)。前処理剤を3時間以上処理すると、葉の黄化を11日間抑制した(表3)。5輪の切り花に前処理剤を1~3時間処理した場合のコストは、1本あたり0.6~1.3円であった(データ略)。以上の結果から、「咲八姫」3~5月出し切り花に対して、ユリ開花液10倍液とクリザールBVB6,666倍液の混合液を3時間以上前処理することで蕾開花率や切り花の日持ちが向上することが明らかになった。

表1 蕾サイズと処理時間の違いが開花に及ぼす影響(5月出し)

区	蕾サイズ	蕾数 (輪)	開花 花数 (輪)	開花率 (%)	開花度 y		
					平均	最小	最大
対照	5.0~5.9	2		0.0	0.0	0.0	0.0
	6.0~6.9	5	1	20.0	2.2	0.0	5.0
	7.0~7.9	4	4	100.0	5.0	5.0	5.0
	8.0~8.9	5	5	100.0	5.0	5.0	5.0
	9.0~9.9	3	3	100.0	5.0	5.0	5.0
	10.0~10.9	4	4	100.0	4.8	4.0	5.0
	11.0~11.9	2	2	100.0	5.0	5.0	5.0
全体	25	19	76.0	4.0	0.0	5.0	
1 h	6.0~6.9	5	5	100.0	5.0	5.0	5.0
	7.0~7.9	6	6	100.0	5.0	5.0	5.0
	8.0~8.9	5	5	100.0	5.0	5.0	5.0
	9.0~9.9	4	4	100.0	5.0	5.0	5.0
	10.0~10.9	2	2	100.0	5.0	5.0	5.0
	11.0~11.9	3	3	100.0	5.0	5.0	5.0
	全体	25	25	100.0	5.0	5.0	5.0
3 h	5.0~5.9	3	1	33.3	2.3	0.0	5.0
	6.0~6.9	3	3	100.0	5.0	5.0	5.0
	7.0~7.9	3	3	100.0	5.0	5.0	5.0
	8.0~8.9	5	5	100.0	5.0	5.0	5.0
	9.0~9.9	4	4	100.0	5.0	5.0	5.0
	10.0~10.9	7	7	100.0	5.0	5.0	5.0
	全体	25	23	92.0	4.7	0.0	5.0
5 h	5.0~5.9	4	1	25.0	2.0	0.0	5.0
	6.0~6.9	1	1	100.0	5.0	5.0	5.0
	7.0~7.9	6	6	100.0	5.0	5.0	5.0
	8.0~8.9	3	3	100.0	5.0	5.0	5.0
	9.0~9.9	5	5	100.0	5.0	5.0	5.0
	10.0~10.9	4	4	100.0	5.0	5.0	5.0
	11.0~11.9	2	2	100.0	5.0	5.0	5.0
全体	25	22	88.0	4.5	0.0	5.0	

(注)開花花数、開花率は、処理後14日後までに開花したものを、開花度は処理後14日後以前に落花した場合、最終調査時の開花度を使用した。

y:開花度(0~5:10%未満~100%)

表2 処理時間が開花や花持ちに及ぼす影響(5月出し)

区	花序	平均 蕾長 (cm)	開花率 (%)	開花 期間 (日)
対照	1	10.6	100	7.4
	2	9.3	100	7.8
	3	8.4	100	7.0
	4	6.8	60	3.6
	5	6.2	20	1.0
1 h	1	10.7	100	8.2
	2	9.3	100	9.2
	3	8.3	100	8.6
	4	7.2	100	8.0
	5	6.6	100	7.2
3 h	1	10.5	100	9.2
	2	9.7	100	9.0
	3	8.5	100	8.0
	4	7.1	100	7.6
	5	6.1	60	4.4
5 h	1	10.8	100	8.6
	2	9.5	100	8.6
	3	8.5	100	7.8
	4	7.2	100	7.0
	5	5.8	40	3.0

(注)n=5

表3 前処理時間の違いが葉の黄化に及ぼす影響(3月出し)

区	葉の黄化指数 z				
	7日目 (3/30)	9日目 (4/1)	11日目 (4/3)	14日目 (4/6)	16日目 (4/8)
対照	0.0	2.0 b	2.0 c	2.6 c	3.0 b
1 h	0.0	0.0 a	0.8 b	1.6 bc	2.0 ab
3 h	0.0	0.0 a	0.2 a	0.6 ab	1.6 a
5 h	0.0	0.0 a	0.0 a	0.6 ab	1.2 a

注1)n=5, 注2)Z:葉の黄化指数(0~3:無~全体)

注3)表中の各調査日の異なる記号間にTukey-Kramerの多重検定により有意差有り(5%)